

瀋陽駐在員事務所



振替小切手



現金小切手



現金小切手(裏面)

中国の銀行小切手について

日本と同様に、中国でも手形や小切手が重要な支払い手段として次第に普及しています。中国でも、銀行為替手形、商業手形、銀行小切手などが使用され、市場経済の発展とともに企業および個人の資金決済の主要な決済手段となっています。

銀行小切手は日本の「自己宛小切手」と同様、銀行が発行し、信用力が高く、支払いが保証されています。銀行小切手の使用は 1988 年から開始され、1994 年に全国の都市部で使用されるようになりました。この他、良く使われているのは「現金小切手」(現金引出専用小切手)と「振替小切手」(振替専用で現金は引出せない小切手)があります。

中国の銀行では会社口座から現金を引き出すには、まず現金小切手が必要になります。小切手の記入や押印について厳しく要求されています。振出日と金額は漢数字の記入が必須である他、登記された会社責任者の氏名印と会社の財務専用印を押します。現金小切手の場合、日本と同様、裏面も法人印と財務専用印を押します。さらに窓口へ手続きに行く担当者の名前と身分証明書の番号の記載も必要になります。

このように小切手の形式や要件は日本と類似点が多いのですが、不渡りとなっても振出人は額面の 5%(最低 1,000 元)の罰金が課されるだけで、取引停止処分等の制度が存在しない為、詐欺などに悪用されることも多いなど日本とは大きく異なる面もあります。

張 璐

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【ロシアの結婚式】

他国同様、ロシアの結婚式もまた新郎新婦本人だけでなく、親戚と友人にとって生涯忘れられない一日になるよう、色々なアイデアを加え、雰囲気盛り上げます。

ロシアでは結婚式の朝、ある儀式が行われます。花嫁は自宅の一番奥の部屋に隠れており、花婿が彼女に会うためには友人が出す花嫁に関する質問に正解しなければなりません。正解出来ない場合もよくあります。この場合は追加問題や罰金を支払います。無事に花嫁とご対面後は全員で結婚登記所に行き証人と呼ばれる男女 2 名と共に婚姻手続きを済ませます。その後で記念写真を撮影します。この記念撮影は日本とは違い、市内観光名所で行われます。ユジノサハリンスク市の場合、最も多い撮影場所が日本風博物館(サハリン郷土史博物館)です。ここは日本人観光客が多く訪れる場所で、結婚記念日にこの場所で日本人と写真が撮れることは非常にユニークで、カップルに取っても記念となります。もし、そんな時はビックリしないで撮影に協力して、カップルをお祝いしてあげてください。そして、夜になると結婚披露宴が始まります。親族・友人がお祝いの言葉を語り、みんなが楽しく過ごせるようにダンスが行われます。日本の様な締め挨拶はなく、披露宴は普通、5 時間程度は平気で続きます。結婚式は国によって文化や伝統、習慣、考え方が違います。是非、日本の結婚式にも参加し、ロシアと比較してみたいと思います。

マリア・ヤロヴェンコ



結婚式集合写真



新郎新婦と日本訪問団

ウラジオストク駐在員事務所

ウラジオストク日本人会について



イベントの様子

ウラジオストク日本人会は、ウラジオストクに居住・滞在する日本人の親睦と交流を深め、日露両国間の友好親善の促進と強化に努めることを目的とした団体です。

ウラジオストクは古くから日本と繋がりがあり、日本人が明治初期から当地に居住し、1892年に最初の日本人組織「同盟会」が結成されました。ウラジオストクが閉鎖都市となり、民間人が全て退去させられた1937年から長い中断を経て、1993年に「ウラジオストク日本人会」として再発足し、現在に至ります。

季節に応じた各種のレクリエーションや忘年会等の親睦行事の開催や、生活情報誌「浦潮瓦版」の作成・配布を行っており、年に一回総会が開かれます。

そのウラジオストク日本人会で夏のイベント「海遊び」が9月13日に開催されました。当日は、天気にも恵まれ快晴の空の下、昨年と同じく、ゾロトイ海岸で行われました。50名以上の方が参加し、ウラジオストク日本センターから海岸へとバス2台で向かい、約1時間ほどで海岸へ到着。早速シャシリクやおにぎりを食べながら参加者同士の交流を深めていました。

他にもスイカ割りやフリスビー・バレーボール、海で泳ぐ人や釣りを楽しむ人など様々にウラジオストクの夏を満喫しました。

伊藤 清平



ゾロトイ海岸にて

カシコン銀行

「タイと中国を陸路で結ぶ内陸の国ラオス」



ラオスとタイの国境

先日、バンコクから12時間、高速バスに乗ってラオスへ行ってきました。ラオスは中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムと5か国と国境を接し、日本の本州ほどの国土面積を有する内陸国。東南アジア諸国の中では唯一、海と接さない国であり、首都ビエンチャンは「世界一何も無い首都」と呼ばれる程穏やかな国です。

人口は約700万人、首都ビエンチャンでも80万人程であり、普段タイの凄まじい渋滞を見慣れている筆者からすると、非常に穏やかで住みやすそうな印象を受けました。一人当たりの名目GDPはタイの1/4程度であり、物価水準はタイよりも低いです。

ラオスにとっての貿易主要国第1位は輸出・入ともにタイであり、ラオス国内での使用通貨はラオス・キップに加え、米ドル、タイバーツが使用可能です。あるタイローカル上場企業のお話では、ラオス及びカンボジア・ミャンマーは国としては他国だが、文化的背景も似ており、特にラオスは経済的にも深い関わりがあることから、同じタイ国内の商圈と捉えているとの事。タイ進出にあたっては将来的にラオスも視野に入るのかもしれない。

伊藤 彰浩



ラオスを象徴する寺院 タートルアン